

- 管内 後志管内
- 分類 通学路の点検 交通安全教室 安全教育 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 警察との連携による具体的な事例を用いた交通安全講話と生徒が主体的に考える活動の設定
- 「スケアード・ストレイト教育技法」を活用した生徒の交通安全意識の高揚

取組の実際

ねらい

- 具体的な事例を通して、自分自身のことを振り返らせるとともに、身近にある危険性について主体的に考える機会とする。
- 「スケアード・ストレイト教育技法」により、生徒が社会通念上望ましくない行為を自主的に行わせないようにする。

内容

1 第1学年交通安全講話

- 時期 7月上旬
- 講師 警察署交通安全課職員
- 内容
 - ・高校生の関わった交通事故等の紹介
 - ・具体的な事例から考えられる交通マナー



【スタントマンによる実演】

2 スケアード・ストレイト教育技法による自転車安全教室

- 時期 交通安全講話と同日開催
- 講師 シャドウスタントプロダクション（スタント）
- 内容 「恐怖への直視」（交通事故再現例）
 - ・時速約20kmの衝突衝撃
 - ・自転車の乗り方（悪い例）
 - ・歩行者専用道路での事故
 - ・見通しの悪い交差点での事故
 - ・横断歩道での事故
 - ・自転車の交通ルール違反重複による事故
 - ・無灯火による、夜間衝突事故
 - ・生徒代表による交通安全宣言



【交通安全宣言】

再現シーンの中での交通事故の衝突音や衝撃は恐ろしく、想像以上でした。また、自転車は、一歩間違えると死亡交通事故や大きな怪我につながる危険性があること、ルールを守る大切さなど多くを学ぶことを改めて確認することができました。

今日から、僕たちは、交通ルールを遵守して交通事故防止に努め、マナーを守り、他人に迷惑をかけない自転車の安全利用に努めます。

※「スケアード・ストレイト教育技法」・・・恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐ教育手法のこと。事故現場を再現してみせ、交通ルールの大切さを学ばせる。

成果と課題

- 交通事故を再現し、衝突や衝撃、怖さを体感させることで、交通ルールを守らないことによる危険性を実感させることができた。
- 今回は1学年を対象としたが、今後は全学年を対象とし、交通社会の一員であるという心構えを醸成し、交通安全意識の高揚を図る必要がある。